

常任委員会とは…

市の多岐にわたる仕事を「総務」・「健康福祉」・「生活環境」・「子ども教育」の4つの分野に分け、分野ごとに議案や請願等を審査するために設けられている委員会です。

生活環境常任委員会

所管事項：環境、道路、まちづくりなど

2年間のテーマ：緑の管理について

生活環境常任委員会委員

委員長 あらたに 隆見(公明党)
副委員長 岸田 めぐみ(ネット・社民の会)
しらた 満(青空りっけん)
上杉 ただし(日本共産党)
三階 道雄(公明党)
石山 ひろあき(自民党)



前列左から、あらたに委員長、岸田副委員長
後列左から、しらた委員、上杉委員、三階委員、石山委員

豊かな多摩の緑を維持するために

多摩ニュータウン開発には自然環境との調和を重視し、残った緑の保存、失った緑を考慮し植樹を積極的に行ってきました。緑は都市活動を支える重要な役割を担っており、多摩市の世論調査からも豊かな緑を魅力だと感じている市民が多いことがわかります。

また議会も市と共に発出した気候非常事態宣言の中で水とみどりの保全をさらに積極的に推進することを謳っ

ています。しかし開発から50年以上経ち、大きく育った緑は落枝や倒木の事故が発生する中で、今後どのように管理・更新をしていくのか大きな課題となっています。

そのため最新事例を調査し、持続可能な新たな緑の管理手法を検討していきます。

子ども教育常任委員会

所管事項：文化、スポーツ、青少年育成、学校教育など

2年間のテーマ：誰ひとり取り残されない学びの保障としての不登校支援について

子ども教育常任委員会委員

委員長 渡辺 しんじ(公明党)
副委員長 大くま 真一(日本共産党)
おにづか こずえ(あすたま・女性の力)
岩崎 みなこ(ネット・社民の会)
しのづか 元(多摩みらいの会)
松田 だいすけ(自民党)



前列左から、渡辺委員長、大くま副委員長
後列左から、しのづか委員、おにづか委員、岩崎委員、松田委員

多様性の時代。学びの多様化をめざして

全国の不登校はこの10年で約3倍と急激に増加し、小・中学校で35万人近くになっています。また、これまで少なかった小学校低学年でも増えています。

国は不登校特例校から「学びの多様化学校」に名称を変更し、学びの多様性を認め、従来の学校における全員一律の教育スタイルではなく、一人ひとりの特性・個性に合わせた学びができる場として、設置してきました。

しかし、設置数は今後の設置計画を含めても目標の2割程度にとどまっているのが現状です。

多摩市でも不登校の出現率が高い状況が続いていることから、誰ひとり取り残されない学びの保障をいかに実現するかを調査・研究していきます。